

わいわいひろば おすすめ絵本のたより

第4号 2025年7月5日 作新学院大学女子短期大学部

「ぼうし とったら」

tupera tupera 著
Gakken

私がおすすめしたい絵本は、tupera tupera(ツペラツペラ)さんの「ぼうし とったら」です。ページをめくるたびに、「次はなにが出てくるの？」とワクワクする、しかけがとても楽しい絵本です。

さまざまなキャラクターが登場し、「ぼうし とったら…？」と帽子をめくると、思いがけないものが現れて、しかけをめくるたび、笑ったり驚いたりできます。私はこの本を、保育園実習で2・3歳児に読み聞かせたのですが、子どもたちは「わあ！」「なんでー！？」と大喜びで、読み終わると「もう一回読んで！」とお願いされるほどでした。

これから暑くなってくる季節、帽子は子どもにとってますます身近な存在になります。この時期にぴったりの絵本として、親子で一緒に楽しめるのはもちろん、子どもの想像力や、表情・変化を楽しむ力を育むのにもおすすめです。しかけを通して自然にコミュニケーションが生まれる、そんな素敵な1冊です。

2年 長嶋麗杏



「モーっていったのだあれ？」

ハリエット・ツィーフェルト 作 / シムズ・ターバック 絵
はるみこうへい 訳
童話館出版

おんどりは毎朝、屋根にのぼり時をつくります。「コケコッコー！」。いつもは誰もこたえないのに、ある朝どこからか「モー」という声が返ってきました。「モーっていったのだあれ？」カラフルで心が躍る、しかけ絵本のご紹介です。

ぶた、いぬ、ろば、ねこ、ひつじ…おなじみの動物たちが次々に登場し、子どもと一緒に「ぶたはなんて鳴く？」と問いかけながら読み進めることで、絵本を通じたやりとりを楽しめるのが魅力の一つです。高校生になる娘が大好きだった絵本のなかの一冊で、特に好きだったのが「ろば」の鳴き声。あまり聞きなれない「ろば」の鳴き声を全力でまねをする私の顔を、目を輝かせながら見ていた娘の表情や、何度もそのページに戻っては一緒に鳴きまねを楽しんだ時間は今でも鮮明に思い出されます。

絵本は読むだけでなく、一緒に感じ、話し、笑い、楽しむためのツールでもあります。お子さまと心を通わせながら、ぜひ一緒に楽しんでみてください。

2年 大倉真弓



「なでなでな一で」

にへいたもつ 作
わたなべさとこ 絵
KADOKAWA

この絵本は、ねこやいぬ、ぶたなど、さまざまな動物が登場し、「なでなでな一で」とやさしくふれることで、動物たちが嬉しそうな表情を見せるお話です。

この本をおすすめするポイントは、「なでなでな一で」という優しい響きのくり返しが心地よく、読んでいる子どもたちが自然と手を動かし、絵本の動物をなでるようなふれあいを楽しむことができる点です。スキンシップを促す内容になっているため、読み聞かせを通して保育者や家族とのふれあいの時間をつくることできる点も魅力です。

また、登場する動物たちの表情が、わたなべさとこさんの絵によってあたたかく描かれており、小さな子どもにも親しみやすく、見ているだけでも安心感が伝わります。この絵本は、特に0歳～2歳ごろの子どもにぴったりで、ふれあいややさしさの大切さを感じるきっかけになるのではと思います。

2年 高山莉里



- ☆ 作新学院大学女子短期大学部で保育を学ぶ短大生達がおすすめの絵本を紹介します。
- ☆ 今年度は、わいわいひろば内にてキッズスペースを設けています。
- ☆ 作新学院大学図書館で、一般の方も絵本や本を借りることができます。
- ☆ 手続き方法などをお知りになりたい場合は、お気軽にスタッフまでお声かけください。